



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

大盛会！

勝坂遺跡縄文まつり！！

11月3日(土)、天候にも恵まれ、多くの参加者を得て「勝坂遺跡縄文まつり」が行われました。

タウン誌に紹介されたこともあり、早朝から多くの方が来園されました。

開会セレモニーは、司会を自治会の方が行い、市生涯学習部長や新磯の自治連会長さんらのご挨拶をいただくなど、昨年度より組織的に運営されたスタートとなりました。

今年度の協力団体による各コーナーは、次のとおりでした。

- クイズラリー(文化財調査・普及員)
- 模擬店(勝坂自治会連合会)
- 土器の野焼き実演、土偶・土笛作り体験(土器作りの会)
- 弓矢体験(旧石器ハテナ館学習指導員)
- 編布編み・矢じり・火おこし・石釜体験(あんぎん)(古代技術を楽しむ会ほか)
- 新磯小児童制作土器展示(新磯小6学年)



みんなで火をおこせ！

そして、全体を楽しくスムーズに進行的ため、文化財調査・普及員は前日準備を始め、当日は早朝から受付案内係、駐車場係、各コーナーの一員として、縁の下で

目次

- ① 大盛会！ 勝坂遺跡縄文まつり！！
- ② 北部班・津久井班合同会報告
・北部班活動報告「大船観音と田谷の洞窟」
- ③ 今も継承する上溝元町観音堂の御詠歌
・上矢部御嶽神社、湯花神事
- ④ 文化財マップ紹介—西部班
～田名地区探訪 その1～

「まつり」を盛り上げました。

当日は、勝坂地区で同時に行われている「ざる菊花見会」も盛況で、そこからも多くの皆さんが「縄文まつり」に参加されました。

次年度は、組織を早くから立ち上げ関係団体との連携を強める中で、さらに盛大な「まつり」となるよう願っています。

(勝坂遺跡活用実行委員会 五十嵐)

「縄文まつり」で“勝坂”を市民の心へ

今年には県立博物館の勝坂縄文展への協力もあり、作品づくりに力が入りました。

参加者の心に残る縄文まつりとなるように炎の芸術「土器の野焼き」、土偶・土笛作り、土器作り、縄文服制作体験等、いろいろな体験の場を企画・運営しました。(土器作りの会 小島)



良い焼き具合・・・土器の野焼き実演

北部班・津久井班合同会報告

毎年 10 月には北部班と津久井班で交流会を開いています。今年も 21 日に行いました。

前半は個々の活動報告です。ある方は県立博物館の「夢想疎石像」の観覧報告、ある方は「古代瓦」についての調査報告等、多岐に及びとても刺激になりました。

後半は北部班の方々の案内で橋本駅周辺の大山道・橋本宿を歩きました。スタートは棒杭ぼうくいと呼ばれる地域にある「大山道道標」で、



大山道道標

正面には「右大山みち」、右側には「北八王子道」、左側には「南あつぎ道」とあります。ここから北上

すると横浜線の踏切にぶつかります。この踏切にも「大山街道踏切」とありました。更に大山道を北上すると橋本宿の入口にあたる香福寺へと続きます。武州

から橋本宿への入り口は境川にかかる両国橋



大山街道踏切

で、30m上流には大山をめざす道者が水を浴び、身体を清めたと伝えられる淵もあります。

現在橋本宿は様相を変え、市登録有形文化財に登録されている「牛久保家の長屋門」だけが残り、周辺の石造物は香福寺に集められていました。だが、街道を一步裏に入ると鎌倉道の一部が残っていて、時の移ろいと往時を感じつつ、帰路につきました。

日頃、何気なく通っている道端にも目線を少し変えるだけで、新しい発見があると教えられた一日でした。(津久井班 久能)

北部班活動報告：イベント「大船観音と田谷の洞窟」

9月1日(土)、大船観音(鎌倉市岡本)と田谷の洞窟(横浜市栄区田谷町)へ出かけました。当日正午、集合場所のJR橋本駅はスクールのような嵐で、電車が不通になるのではと危ぶまれましたが、横浜に近づくにつれ風雨が治まり、大船駅では道路が乾いていました。同じ県内でも、県北の相模原と湘南地区の大船では大きな違いでした。

大船観音は車窓から見えますが、建立は意外と新しく昭和39年です。高台にあるため立像ではなく胸像(約25m)です。曹洞宗大船観音寺にあり、境内には昭和45年に建てられた「原爆慰霊碑」もあります。最近、アジア出身の参拝客も増え、「ゆめ観音アジアフェスティバル」が行われています。(今年は9月8日開催)

大船駅西口観音側から戸塚方面に20~30分歩くと、真言宗定泉寺に着きます。境内の奥「田谷の洞窟」詳しくは田谷山瑜伽洞(たやさんゆがどう)があります。鎌倉時代初期から江戸時代にかけて、密教修行僧によって掘られた上下三段、



案内パンフレット

全長約1kmの地底伽藍です。現在は500m位まで入ることができ、壁面や天井には数百体の仏像仏画が彫られています。

本尊の一願弘法大師をはじめ、四国、西国、秩父、坂東各札所、両界曼荼羅諸尊十八羅漢などがあり、洞内には古の厳しい修行を彷彿とさせる無数のノミ跡があります。

見学される方は、受付で蝋燭を頂きますが、真っ暗なので一人ではなく何人か連れだつて訪ねる事をお勧めします。(北部班 石渡)

今も継承する上溝元町観音堂の御詠歌

上溝元町自治会館脇に上溝元町観音堂（武相四十八観音霊場三十番札所）があり、正観世音菩薩（伝行基作）が五部会（元町・田中・本久自治会）により祀られています。明治末期に現在地に移され、昭和 43 年に改築し現在に至っています。

御本尊の正観世音菩薩像はある時、一夜の宿乞いをした老僧が、手厚くもてなしてくれた養蚕農家の夫婦に、「この観音像を大切にお守り下さい。そうすれば養蚕の加護、安産に御利益が高いのです。」と教え、置いていかれたと伝えられています。

御縁日は毎年 10 月 9 日、19 日、29 日で、御詠歌の奉詠が行われています。

御詠歌がいつから行われたか定かではありませんが、以前は近隣（元町、田中、本久、本町、田尻など）の女性による「上溝詠歌講」として唱えられてきましたが、昭和 40 年代後半には 5、6 人にまで減少したため、元町の有志が中心となり、観音様、御先祖様を大切にお守りしようと昭和 50 年の春「卯月会（うづきかい）」をつくり、昭和 60 年には田中、本久の有志も加わり、現在は 18 名で御詠歌の伝承と親



観音様に向けて御詠歌の奉詠

睦をはかる会として活動されています。

流派は「高野山金剛流」で、練習会は月 2 回行っているとのこと。

平成 24 年 10 月の縁日に「卯月会」の皆さんが袈裟をつけ、” きみょうちょうらい・・・かんぜおん いのるしるしは ありあけの うきよのやみを てらすかみみぞ ” の武相三十番御詠歌を鈴・鉦の響きとともに唱和されるのを拝聴し、身心が穏やかになりました。

これからも後継者が増えて、継承されていかれることを願っております。（西部班 尾梶）

*御詠歌：和歌や韻文に日本古来の節を付けたもので、平安時代より伝わる仏の徳などをたたえて唱える歌です。

上矢部御嶽神社、湯花神事

東部班では、昨年から地域寺社の行事を、何年かかけて調査し、記録に残す取り組みを行っています。その中のひとつ、上矢部御嶽神社の湯花神事を紹介します。

今年は 9 月 1 日、午後 3 時から拝殿内での例祭神事後執り行われました。拝殿前に注連縄をはった青竹を四方に立て、その中央には三本のスチール棒の上に置かれた釜が用意され、前もって釜の下で火が焚かれ湯が沸いています。この釜を支える棒、かつては桜の木だったとか。

まず神官、氏子総代が釜前から拝殿前に進み、棚から桶、柄杓、笹の束を持って下がります。釜から初湯を柄杓でその桶に汲み元の棚に供え



湯花神事

ます。この棚は毎年氏子たちが「カツンボー」とよんでいるヌルデの木を 13 本使って作って

るものです。毎年作り手が代わるので見本を見ながら四苦八苦して作っている様子がなんとも言えずほほえましい情景でした。



カツンボーで作った棚

次に神官が釜前で祝詞を唱えたあと、笹の束を釜の中へその都度入れながら湯を左、右、左、右、中央と振り払い終わりです。

この神事は、家内安全、氏子繁栄を願って行われるものです。神社によっては払った湯を氏子、参詣者に振りかけその湯がかかる、あるいは持ち帰り飲むと 1 年間無病息災でいられるなど、いろいろいわれがあるようです。又湯を払うのが笹ではなく、榊というところもあります。

湯花神事は県内、近くは東京都、千葉県などの多くの神社で行われているようですが、市内では唯一ここのみの貴重な神事、長く続けてほしいものです。（東部班 市川）

田名地区探訪 ～その1～



*ご要望があれば、文化財調査・普及員が各地区の文化財の案内をいたしますので、文化財保護課までご連絡ください。

今回は、半在家から堀之内地区周辺の史跡で主に目視出来る石造物や社を紹介します。

出発は四ッ谷バス停、終着は上田名バス停でコースを設定しました。

この地域の石造物は開発により元にあった場所から移されたものも多くあります。

コース近辺の埋蔵文化財発掘地も紹介します。

土地造成に伴い発掘された遺跡の上は建物や道路になっており、現在目にすることは出来ません。しかし、この地域に旧石器時代から現代に至る迄、連綿と人々が生活を営んでいたことを示しています。

光熱、通信、医療などが発達していない時代の人々は、石造物に何を願い祈ったのでしょうか。

このコースは普通に歩くと2時間弱ですが、各時代の景観などを思いながらゆったりと廻って見て下さい。バス停周辺にはコンビニやレストランもありますよ。

①：石神社

四ッ谷集落の守り神です。境内には集落内にあった各種の石造物や道標が保存されています。

②：横浜水道みち

緑区青山から横浜市保土ヶ谷区まで、ほぼ一直線に伸びるこの道の下に水道管が埋められています。明治20(1887)年9月に完成した国内最初の近代水道です。

③：三角山

昔ここで天気を願う神事が行われていたといわれ

ています。今は戦没者の慰霊碑が建つ公園になっています。

④：田名小学校・田名堀ノ内遺跡

現在地に前身である尋常高等田名小学校が出来たのは、100年以上前の明治29(1896)年です。敷地は田名堀ノ内遺跡の範囲です。プール・給食室を改築する時の発掘で、縄文時代と古代の遺構と遺物が発掘されています。縄文時代早期の沈線文土器が出土しました。

⑤：田名堀ノ内遺跡第2地点

旧石器時代の遺物、縄文時代と古代の遺構と遺物が発掘されています。古代の墨書土器が出土しました。今、その場所には消防署が建っています。遺跡の案内板もありますよ。

⑥：二十三夜と二十六夜塔

一基の石塔の正面に「二十三夜塔」、左側に「二十六夜塔」と刻まれています。子孫繁栄や養蚕の神に祈る行事が行われていました。

⑦：山王社

ここには、半在家の各地区にあった社や道祖神などが集められています。陽石や陰石もありますよ。

⑧：庚申塔

庚申信仰によって建てられた石造物です。寿命が縮まらないように60日おきにめぐってくる庚申の日に一晩中おきているならわしがありました。ここには道祖神なども祀られています。

⑨：大杉の池・弁財天

昔、大きな杉の木があり遠方からの目印になったそうです。八瀬川の水源の一つです。今は、杉の木は無く公園になっています。池のとなりに弁才天の社があります。

次号では、⑩～⑱を紹介します。(西部班 鹿山)

*文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは相模原市のホームページからダウンロードできます。